柑　橘

３月の農作業管理

指導販売課

剪　定

「一果入魂」こだわりを持った生産管理に努めよう

◎密植園は間伐を優先して行ないましょう。

密植園では陽光があまり入らず防除もしづらくなりますので、そのような園地では優先的に縮伐・間伐を行いましょう。

・樹勢の弱っている樹（落葉、枝枯れ）

４月になって春芽が発芽した後に軽めの間引きせん定、枯れ枝の除去を行いましょう。

・樹勢のしっかりした樹（３月上旬に実施）

表年の樹　間引き主体に切り返しを入れてやや強めのせん定。太枝の間引き、樹高の単縮、内向枝の整理、側枝の短縮、下垂枝の切り上げ、予備枝の設定と夏秋梢の整理が主なポイント。(除葉率 20%)

裏年の樹　軽めのせん定。かぶさり枝や下垂枝を切除だけでも十分に効果がある。(除葉率 10%)

春肥の施用

● 春肥は開花、結実、果実肥大に必要な養分を供給します。基準量を適期に施しましょう。

品種	施肥時期	柑橘１号	柑橘５号
極早生	３月下旬	４袋	５袋
早生温州		５袋	６袋

品種	施肥時期	柑橘１号	柑橘５号
中生・普通	３月下旬	５袋	７袋
高糖系		６袋	８袋
中晩柑		６袋	８袋

植え付け手順

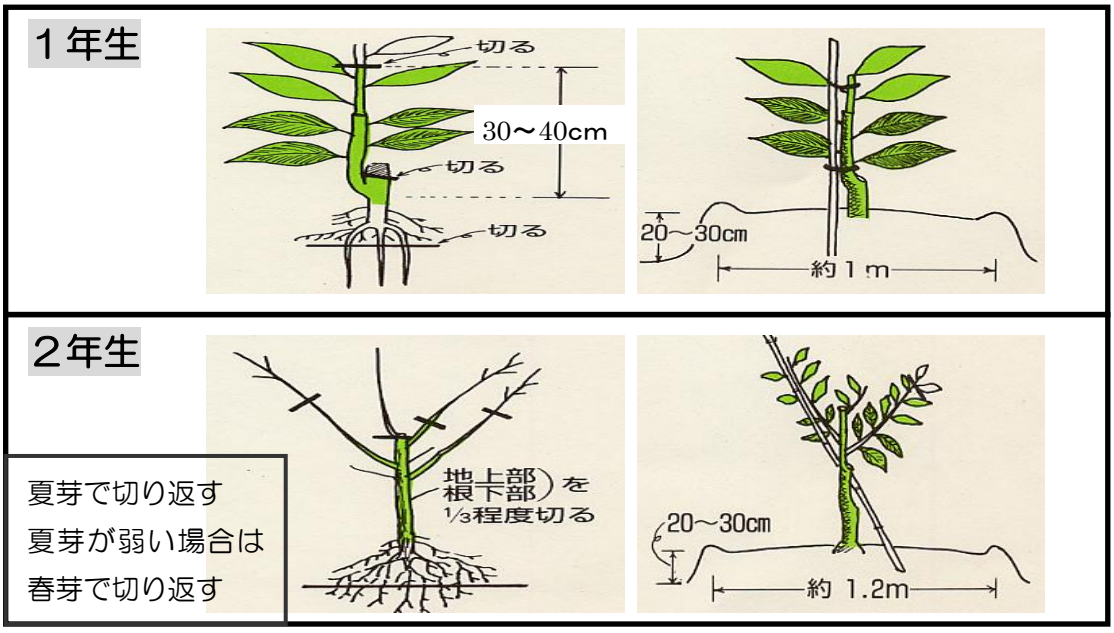
① 植え穴には完熟堆肥３０ｋｇ、ヨウリン３００～５００ｇ、サンライム１．２～２ｋｇを入れ土と混ぜ合わせましょう

②３月中旬～４月上旬に植え付けをおこないましょう

・根はよくひろげ、土になじませて植えましょう

・根を活着させ生育を旺盛にする為に必ず支柱を立てましょう

③植え付け後は十分に潅水しましょう



病害虫防除

時期	病害虫	防除薬剤
3月上旬	ミカンハダニ	アタックオイル　６０倍（樹勢の弱っている樹は控える）
3月中旬	かいよう病	IC ボルドー６６D　２５倍～４０倍（発芽前）

注１：アタックオイルの散布は冬期に散布していない園が対象です
注２：ＩＣボルドー、調整ボルドーの散布は、アタックオイルの散布後１４日程度は間隔をあけて散布して下さい。
注３：かいよう病多発園は、５月下旬にＩＣボルドー66D　80 倍＋アビオンＥ　1,000 倍を散布。

春草の除草

地温の上昇にともない春草の生育が活発になります。
草と樹の養分競合を防ぐため早めに春草の除草をおこないましょう

使用薬剤	適用雑草名	１０ａ当たり使用量		
		薬量	希釈水量（通常）	希釈水量（少量）
ラウンドアップマックスロード（吸収移行型）	１年生雑草	200ml～500ml	50～100ℓ	5ℓ、25～50ℓ
	多年生雑草	500ml～1,000ml		
サンフーロン液剤（吸収移行型）	１年生雑草	250ml～500ml	50～100ℓ	25～50ℓ
	多年生雑草	500ml～1,000ml		
バスタ液剤（接触型）	１年生雑草	300ml～500ml	100～150ℓ	30～40ℓ
	多年生雑草	500ml～1,000ml		

※少量散布（5ℓ/10a）は専用のラウンドノズルＵＬＶ５を、少量散布（25～50ℓ/10a）はラウンドノズルＬＶ２５を使用して散布。

落葉果樹

《ウメの管理》

作業	時期	内容
春肥の施用	3月上旬	柑橘有機配合１号（８・６・４）　２袋／１０ａ
灰色かび病	3月下旬	ストロビードライフロアブル2,０００倍
アブラムシ防除		ダントツ水溶剤４,０００倍

野　菜

《タマネギの管理》

作業	内容
べと病防除	春先の気温が高いと「べと病の発生」が危ぐされますので雨の前にジマンダイセン水和剤４００倍を散布しましょう。（ネオエステリン 5,000 倍を添加） ３月中旬以降はリドミルゴールドＭＺ1,000 倍を散布しましょう。
除草	雑草が多いと養分競合を起し、極端に肥大が悪くなりますので除草しましょう

営農相談専用（指導販売部）　フリーダイヤル　　０１２０－０８２－７２２